

# 200カイリ水域内漁業資源総合開発調査

本 永 文 彦

## 1. 目的及び内容

本調査は国庫委託を受けて昭和52年より継続実施している。

沖縄県水域内における重要漁業資源を、科学的根拠に基づいて資源管理を行なうのに必要な漁獲統計および生物情報を収集することを目的とする。

## 2. 方 法

①漁獲量統計の整理 沖縄水試では1989年より沖縄県内各市場におけるセリ販売情報の記録されたフロッピーディスクを収集している。この資料を用い、地域別漁法別魚種別漁獲量と水揚げ隻数の漁獲量統計を作成し漁業動向をモニターするのに利用する。

また、糸満漁協に水揚げされる魚種について、同漁協職員にセリ山当たりの尾数を記録することを依頼している。この資料を用い、“たまん”や“あかじん”などの体重組成を作成し、年齢構成を推定する指標として利用する。

②標本船調査 糸満漁協所属の延縄漁船を標本船として指定して、毎月の出漁日、漁場位置、魚種別漁獲量の報告を受ける。

③生物測定調査 沖縄各地で漁獲されるとびうお類の種類組成や体長、体重、性別、生殖腺重量、成熟状態、胃内容物組成を毎月購入し調査する。また、後日に年齢査定に供するため、耳石を採集し保存した。

## 3. 結果の要約

①漁獲量統計の整理 得られた漁獲量統計は詳しい漁場位置や漁獲努力量に関する情報を欠くが、地域別の漁法別魚種別漁獲量と漁法別の水揚げ隻数を知ることができる。現在、これを用いた漁獲量統計を作成中であるので、整理次第別途報告する。

②標本船調査 標本船による詳しい漁獲状況についての資料を受理し、現在資料の整理中である。

③生物測定調査 伊江島と糸満、八重山の3漁協より標本を購入し、詳細な生物測定を行った。この調査は平成4年度で終了したが、資料の解析の完了後に別途まとめて報告する。